

第6回 航空局コンプライアンス・アドバイザー委員会議事概要

■日時：

後藤 委員 令和2年3月3日（火）13：45～14：45

芝 委員 令和2年3月4日（水）15：00～16：00

前田 委員 令和2年3月4日（水）11：00～12：00

※新型コロナウイルスの影響により、各委員への個別説明による持ち回り開催

■出席者

[航空局コンプライアンス・アドバイザー委員]

後藤 晃 （東京大学名誉教授）

芝 昭彦 （芝・田中経営法律事務所 弁護士）

前田 泰宏 （新日本有限責任監査法人エグゼクティブ・ディレクター 公認会計士）

[航 空 局]

総務課職員管理室 宮藤職員管理室長、鈴木課長補佐、手銭専門官

■議 事：

- （１）平成31年度・令和元年度航空局コンプライアンス推進計画の実施状況報告（案）について
- （２）令和2年度航空局コンプライアンス推進計画（案）の策定について

■ 各委員からのご意見

1. 継続的なコンプライアンス意識の確保について

・民間企業もそうだが、他省庁で大きく取り上げられた不祥事をみると上層部が問題を起こすケースが増えてきている。

局長をはじめ幹部が本気になってコンプライアンスに取り組むことが大事であり、局長自らが、より良い組織にするために何をすべきか具体的な自身の目標を掲げてコミットする等、如何に幹部らが率先垂範できるかが重要である。

- ・コンプライアンスミーティングについては良い手法と考えるが、自分の経験からしてミーティングに参加する側は、主催側の担当者から監視されているように感じて、言いたい意見も言えない面があるとして不評な意見もあった。担当者は離れて聞いているだけとか、ミーティングの総括の際だけ参加する等、事前に進め方を決めて実施することが肝要。

コンプライアンスミーティングや研修のケーススタディとして、例えば工事については、非常時などやむを得ない状況において、正規の意思決定プロセスを行えず、コンプライアンス上から規則の特例措置を作る必要もあるところ、一刻を争う状況において何を優先するかなどを設定としてみてはどうか。

- ・仕事の仕組みがコンプライアンスの問題を生んでいることもある。発注のプロセスや仕事の仕組みのあり方について、制度的な仕組みをつくることも含め、業務の改善に繋がるような見直しを検討してみてもどうか。

2. 職員のコンプライアンス軽減負担について

- ・コンプライアンスの取組と本来業務とのバランスを取ることも重要であることから、様々な取組の効果を検証し、効果的なものに絞っていくことも検討してはどうか。

3. 管理職のマネジメントについて

- ・将来的な取り組みとして、幹部に対してコンプライアンスに絞った360度評価（多面観察）を実施するのは如何か。匿名により部下からの率直なコメントを集め、幹部らが自身の言動を振り返ることは、より一層のコンプライアンス意識向上につながると考える。